

# 東北大鬼城句会

松本 貞  
(昭和38年卒)

平成十七年初夏、同年開催の三八同期会の下打ち合わせに箱根に集った仲間から、文化的遊びの集会もどうかと提案が出た。幸い同席した俳人村上鬼城の孫である村上幹也氏(谿聲先生)が俳句の指導を快諾してくれた。

同年七月学士会館にて表記会名で場所を用意したところ、肩苦しい名称だが東大・京大に負けぬよう精進しようとの主宰挨拶で始

けてもらえる気配りが励みになった。主宰が二〇年発行の同期会記念文集「野鶴」に「どっこい、ちゃん」と続いて「九三年」という題で面白く語っている。

終了後の飲み会で同期生の情報交換も出来、毎年五月の高崎の鬼城草庵での句会も楽しみ。

平成二十二年七月第二五回開催を記念し、同人句集「三光鳥」を発行した。会員一六名の自選句一〇句にコメントを付け、主宰吟一〇句で巻頭を飾った。

現在、主宰谿聲先生が思わぬ病で療養中のため会員の互選を中心にして研鑽をしようという全員の想いで会が続いている。

無愛想な苗売りにして頼みあり  
主宰・村上幹也(谿聲)  
新涼の駅に付む古老かな  
伊東興三(興山)



流木や千里連なる夏の波  
岩測 上(如雨)  
藪中の小滝の虫にヤママ飛ぶ  
内山武司(竹林)  
夕星や茶寮の庭に添水鳴る  
小川 修(修人)  
日本の空が大好き鯉のぼり  
奥山興悦(游悦)  
八重桜散りたる後も花むしろ  
加賀美一(竹風)  
七草粥口元ゆるむ百二歳  
小林幸司(幸風)  
嫁に出すごとく新米送り出す  
鈴木鍊一(蓮田池)  
黒百合に託して告げる蝦夷の恋  
高橋啓悟(啓窓)  
稲妻にをののき思ふ9・11  
中野安弘(仲安)  
愚管抄先まだ厚き寒日和  
平山隆一(越庵)

写真の説明  
右は、句会風景、左は、平成二十二年一月二二日の句会後の新年会記念写真、三二年卒樋口陽一先生、他三五年卒一名、三八年卒一名、三九年卒一名、四三年卒二名出席。



被爆者の眠る辺りか牡蠣浅  
松本 貞(貞風)  
草餅をほおばりメタボ考える  
三浦器允(三甫)  
冬將軍墨絵の世界描きけり  
武蔵好彦(弁慶)  
静の舞このあたりかと初詣  
合田俊知(三鬼堂)  
以上、主に句集「三光鳥」掲載句から引用。  
開催は、奇数月の第四金曜日  
一三時から一六時於学士会館。

お問い合わせ先  
E-mail: teifu403@yahoo.co.jp  
Tel・fax 046-285-5690